

st. 1では極粗粒砂 ( $2000 < \mu\text{m}$ )の比率が高く、その他の地点でも中央粒径値は粗粒砂 ( $500 \sim 1000 \mu\text{m}$ )であった。5地点とも  $250 \sim 500 \mu\text{m}$ 以上で  $80 \sim 90\%$ を示し、粗粒砂から極粗粒砂で大半を占められている。特にst. 1とst. 5では  $500 \sim 1000 \mu\text{m}$ 以上で  $70\%$ を示し、ほぼ極粗粒砂で構成されている。

塩酸処理後の残留率は過去の調査と同様に湾口部の値が湾奥部に比べて低い傾向がみられる。特にst. 2, 3では河川からの陸土の流入の影響によると思われる高い値がみられる。

## (2) 底生生物調査

1987年8月27日に粒度組成調査の中から3地点で採泥し、底生生物を調査した。

標本は10%ホルマリンで固定した後に  $500 \mu\text{m}$ のふるいにかけて測定した。

結果は表8に示した。

各地点とも多毛類が多く、st. 1では紐形動物と線中類も多かった。また出現種類数ではst. 3が多く、二枚貝、クマ目、クモヒトデ類、なまこ類等も出現した。

表8. 川平湾浅部ベントス

Station	No	1	2	3
紐形動物		5,800	1,000	1,800
袋形動物線中類		258	38	116
環形動物遊在目		184	52	
定在目		7,000	4,400	13,200
貧毛類		1,578	740	2,906
ユムシ類		2,200	600	2,600
軟体動物二枚貝綱		350	64	478
節足動物クマ目		200		1,400
棘皮動物クモヒトデ類		182		4,736
なまこ類			200	400
			626	32
				200
				10,190
		200		200
		48		46
				200
				36
		200		400
		1,422		6,188
計		21,000	6,800	20,400
		4,022	1,520	24,728

上段：個体数/ $\text{m}^2$ ，下段：湿重量 $\text{mg}/\text{m}^2$